

講義名	研究演習				
講義コード	45417	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 木曜日 5 時限
担当教員	内山 勝久			サンパリング・コード	SEM350

学部・学科	演習分野
経済学部（経済学科・経済情報学科）	企業行動と経済・環境

概要説明

皆さんの大部分は職業生活のかなりの時間を企業で過ごすことになります。企業は社会の重要な構成員であり、持続可能な社会の構築においても重要な役割を果たすことが期待されています。
このゼミでは経済学，企業会計，環境学の知見を習得しながら，企業行動を多面的かつ実践的に学びます。

■研究演習

以下の教科書を1年間かけて皆で輪読して，企業行動を経済学の視点から理解します。また，後期には卒業論文のテーマと大まかな内容も考え始めます。

<教科書>
『ビジネス・エコノミクス（第2版）』（伊藤元重（著），日本経済新聞出版，2021年） 544ページ

<到達目標>
・経済学の知見を使って企業行動やビジネス戦略を理解し，他者に説明できるようになる
・豊富な書籍をしっかりと読んで，社会で必要となる情報要約力（要点をつかむ力）や文章表現力，語彙力を向上させる。

【備考：今後の計画】

■卒業研究（4年次）

前期は，企業が発行する「統合報告書」や「サステナビリティ報告書」を読んで，企業行動を環境やサステナビリティの観点から理解します。それと並行して卒業論文執筆の準備（論文の構成の検討や資料の収集）を開始します
後期は，それまでに学んだ知見を総合的に活用・駆使して，各人が卒業論文をまとめます。

演習効果を高めるために，受講生と相談の上で計画を修正する可能性もあります。

主な卒業論文のタイトル

2024年度から新規開講のゼミですので，卒業論文指導実績はまだありません。

【備考】
卒業論文のテーマや内容は，経済に関連するものやデータを扱うものであれば，基本的に自由にするつもりです（環境と経済に関連するものであればさらに嬉しいです）。各人の問題意識を大事にしてください。

教員よりの要望

・研究演習 と同様に「輪読」で学びを深めます。輪読は経済学科の他のゼミでも採用されているオーソドックスな学修方法です。
・ゼミは学生主体の学びの場です。ゼミの雰囲気を作るべく楽しくするのも暗くつまらないものにするのも学生次第です（教員としては明るく楽しい，皆で協働して成長し，生涯の友人を得られるようなゼミとなることが理想と考えています）。
・学生が主体的に行動することが期待されていますので，受け身の姿勢（ただ座っているだけで何も発言しないなど）では得られるものは何もありません。遠慮したり恥ずかしがったりせず，ゼミ活動や仲間との交流に積極的に関わることが求められます。
・ゼミでの学びを有益なものにするためには，教科書や資料の毎回の予習が不可欠ですし，極めて重要です。毎回の予習に十分な時間を確保できない人や怠慢な人には，このゼミはおすすめしません。
・ゼミは社会に出るための準備の場でもあります。無遅刻無欠席であることはもちろんのこと，自分なりの疑問や課題を持ち，さまざまな授業で学んだ知見を駆使して仲間と協力しながら解決を図り，その成果を報告できるようになるためのトレーニングの場であることを強く意識してください。

選考方法

・編入の場合は，提出された応募書類，面接，および学業成績により選考します。
・編入を希望する学生のために，事前に個別ガイダンスを開催する予定です（詳細は別途お知らせします）。編入を希望する人は個別ガイダンスに必ず参加してください。

評価方法

・平常点で評価します。すなわち，出席状況（ゼミは無遅刻無欠席が原則です），発表や討論の質と量，毎回の予習復習の成果，受講態度，ゼミ活動への貢献度（リーダーシップの発揮や企画等の提案，雰囲気作りへの貢献など）を総合的に評価します。
・正当な理由のない欠席が多い学生や受講態度不良の学生は，除名することがあります。

教員英字氏名	研究室
Katsuhisa UCHIYAMA	研究棟 2605室

最終学歴

一橋大学経済学部

学位

経済学士

主な研究活動・社会活動・研究業績

【著書・共編書】
・Environmental Kuznets Curve Hypothesis and Carbon Dioxide Emissions, (SpringerBriefs in Economics: Development Bank of Japan Research Series), Springer, 2016年。
・『日本経済 社会的共通資本と持続的発展』間宮陽介・堀内行蔵・内山勝久〔編〕，東京大学出版会，2014年。
・『格差社会を越えて』宇沢弘文・橋本俊昭・内山勝久〔編〕，東京大学出版会，2012年。
・『21世紀の都市を考える―社会的共通資本としての都市2』宇沢弘文・國則守生・内山勝久〔編〕，東京大学出版会，2003年。

【最近の研究論文等】
・「サステナビリティ活動と企業価値―DBJサステナビリティ評価認証融資による実証分析―」RCGW Discussion Paper Series, No. 69, 日本政策投資銀行設備投資研究所，2024年。（共著）
・「公害防止投資と資金調達―1970～90年代電力企業の実証分析」『流通科学大学論集―経済・情報・政策編―』，第31巻第2号，57-71頁， 2023年，流通科学大学。（単著）
・「産業公害の克服と金融の役割の再検討―1970年代開銀公害防止融資の実証分析」『経済経営研究』，Vol. 41, No. 2，日本政策投資銀行設備投資研究所，2020年。（共著）
・「社会課題の解決と金融機関の役割―ESG融資としての日本政策投資銀行の評価認証型融資」『研究報告 CSR白書2019―SDGsの企業経営への影響』，116-125頁，東京財団政策研究所，2019年。（単著）

趣味・特技

・旅行（国内・海外），とくに鉄道旅行が好きです。訪れたまちをブラブラ歩くのも好きです。
・ラーメンの食べ歩き（種類全般が好きです）。

所属

経済学部 経済学科

所属学会

環境経済・政策学会
日本経済学会

専門分野

環境経済学・環境経営論
研究の関心：企業の環境配慮行動と資金調達に関する実証分析

担当科目

環境経済論，地域環境政策，都市環境論，地域観光政策，金融論（経済学部），業界研究（金融），日本事情B【留学生科目】

備考

指導可能分野：（主）環境経済・環境経営，（副）日本経済，金融
環境分野については，興味のある環境問題が一ひとり異なる場合が多いので，4年次の卒業研究（卒論指導）での個別指導とする予定です（要望があれば2，3年生にも随時個別指導します）。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
銀行（政府系金融機関）に31年間勤務しました。銀行の融資部門では企業を多面的に審査する金融実務に携わりました。管理部門も経験しましたが，長年にわたり調査研究部門での業務に従事しました。銀行で経験した企業の見方をゼミでの学修でも活用したいと考えています。